



### 3. 活動内容

#### ① 「川のひみつを大調査！」～郷土の川を守る気持ちを育む～

本校区には、梅田川という二級河川が流れている。校歌の歌詞（三番）にも登場する児童にとっては親しみ深い川である。4年生の総合的な学習の時間では、この梅田川について理解を深め、川をきれいにするにはどうしたらよいかを考えることで、身近な環境の保全活動につなげようとする学習を進めた。

4年生は、6月に社会科で、浄水と下水など、暮らしを支える水の公共事業のしくみについて学習をしている。6月28日（火）は、上下水道局から講師を招き、下水道のしくみについて学習した。また、7月8日（金）の校外学習では、実際に浄水場と下水処理場を見学し、水の供給と処理について認識を深めている。



【4年中島下水処理場の見学】

下水処理場を訪れた際、子どもたちは、処理される前の汚れた水の臭いに戸惑ったが、浄化されていく過程で水がどんどんきれいになっていく様子に驚いていた。

梅田川は、本校区（二川）を流れた後、下流の植田小校区を流れている。植田に在住し、梅田川流域の環境について考える会「梅田川フォーラム」を主宰している小林さんを「梅田川はかせ」としてゲストティーチャーに迎えることで、活動の充実を図った。

小林さんは、子どもたちに、梅田川が豊かな川であること、そして、そこに生きるたくさんの動物や植物について紹介をしていただいた。その中で、川の動植物を調べることで、川の環境について知ることができることを学んだ。

また、愛知県環境部水地盤環境課の主催する「水質パトロール隊」に応募し、調査マニュアルと水質管理測定試薬（CODパック）を送っていただいた。

こうしたことをもとに、4年生76人が以下の三つのグループに分かれ、梅田川のことについて調査する活動を展開することとなった。（7月15日）

##### A 水質パトロール隊

CODパックと、小林さんに提供していただいた水質調査キットを使い、梅田川の水質状態を探る。

##### B 川の生き物調査隊

川に棲む生き物を捕獲し、指標となる水生生物の有無を調べることで梅田川の水質環境を探る。

##### C 川辺の植物調査隊

外来植物がどのように繁殖しているかを調べると同時に、ヨシなどの植物がどのような環境で生えているか、ごみの状態などについても探っていく。



【梅田川の調査4年】

水質調査を行った子の一人が、「上から見るとにごっているのに、筒を横から見ると透明なんだ」と述べた。見た目は汚れた川であっても調べてみると案外きれいなのかも知れないという期待を抱き、検査をしていったが、結果は、COD, 6～8 mg

1と、決してきれいとは呼べる状態ではなかったことを知った。

いつも横を通っている川の底にある石をどけてみたら、多くの生き物がいるという事実を知り、子どもたちは目を光らせていた。「カエル、ドジョウ、メダカなど、思ったよりもたくさんの生き物がすんでいることがわかった。」と感想を書いている子もいて、梅田川は、人間だけでなく、多くの生き物が暮らす大切な川であるという認識を深めていた。

また、セイタカアワダチソウを筆頭に、外来植物が川辺を占領している箇所もあり、水の浄化に大きな意義のあるヨシの生息を脅かしているということを知ることができた。また、植物調査をする際に、草原の下には必ずといっていいほど放置されたごみが見つかり、清掃活動の大切さを認識した。

こうしたことから、「梅田川クリーン作成」という活動が町内で展開されていることを知り、その活動に参加したいと希望する子が出てきた。残念ながら、今年度の活動は天候不良のため中止となったが、その活動と並行して町内で展開されている「さくら守の会」が梅田川の土手に植えられている桜の木を守る活動をしていることを知った。そこで、さくら守の会の方を講師として本校に招き、校庭の桜の木の手入れの仕方を教わり、4年生全員で、根の肥料やりを実践をしている。(12月19日(月))

身の回りに当たり前のようにある水は、大切にしなければやがて手に入れられなくなるということを子どもたちは学んだ。そして地域に流れる川への愛着を深め、守っていこうとする気持ちをもつことができた。

わたしたちが気づいていない時、川はよごれていってるんですね。これからは、川のごみがふえないように気をつけていこう！！(4年女子、学習のまとめより)

## ②二川の歴史再発見～古きをたずね新しきを知ろう～

本校区は、JR線二川駅、国道1号線を中心に、宿場町としての伝統を残しつつ、流通や産業が発達してきている。こうした町の発展は、過去の歴史の中、その時代を生きた人々のおかげと言える。6年生の総合的な学習の時間では、そうした人々の生き方や考え方を考えることで、自分たちを支えてきた人々に感謝する気持ちをもち、地元を愛する気持ちを育みたいと考えた。

まず、二川の身近な場所から歴史を感じるころはどこかについて話し合い、「調べてみたい」と思われることを中心にグループ分けをした。

- ・普門寺
- ・八幡社
- ・旧東海道
- ・本陣
- ・小学校
- ・製糸場
- ・トーチカ

子どもたちは、文献やインターネットでそれぞれ興味をもったことを調べた。同時に、その歴史的な場所と関わりがある方をゲストティーチャーとして招き、二川の歴史についての認識を深めた。

製糸場について調べていたグループは、豊橋市美術博物館の方で、民俗資料収蔵室の館長をしている大竹氏を招き、蚕のまゆから絹糸を作る技術について説明してもらった。(6月17日)



【製糸の説明を受ける 6年】

旧東海道のグループは、古い町並みに店を構える老舗和菓子屋に出向き、和菓子屋として店を守ってきた経緯や名物と呼ばれるようになったメニュー開発のいきさつなどについてのお話を聞いた。(6月17日)

それぞれのグループでの取材をもとに、調べたことや考えたことを発表し合った後、これからの二川の未来について考え、話し合う場面を設けた。

また、本校の6年生は、例年、東海道に行く、参勤交代の様子を再現した二川宿本陣まつりに参加している。今年は、鼓笛隊での参加であったが、二川の町をかつて往来したであろう大名行列に思いを馳せ、地域の人々とともにまつりに参加をしている。

話し合いや経験をもとに子どもたちが考えたことを発表し合う場を、「二川の未来を考えるフォーラム」として2月15日に、ゲストティーチャーとして学習に携わっていただいた方をお招きし、開催する予定である。

まもなく小学校を卒業し、やがてはこの二川の町を自ら盛り上げていく立場になる子どもたちにとって、町のことを考え、自分が何を成すべきかを考える上で、とても重要な学習となったのではないかと思われる。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）